

偉大な中村医師をしのぶ

現地で19年間 看護師の藤田さん講演

昨年12月にアフガニスタンでの活動中に銃撃されて死亡した「ペシャワール会」の現地代表、中村哲医師をしのぶ会が22日、豊橋市南牛川2の私立桜丘高校であった。現地で19年間、中村さんを支えてきた看護師の藤田千代子さん(61)が講演し「目の前で困っている人を助ける」という方針で続けてきた中村先生の活動を続けていきます」と語った。【安藤聡】



講演する藤田さん＝桜丘高校で

中村医師は1980年代にパキスタン、アフガニスタンを訪れて難民の診療のほか、農業、かんがい、食糧支援を続けた。昨年12月4日、アフガニスタンで武装勢力に襲われ死亡した。享年73。豊橋では2001年に「ペシャワール会豊橋」が開設された。翌年には平和教育を實踐する同校を訪れて講演した。

藤田さんは1990年から2009年まで現地活動した。講演では中村医師との活動を紹介。当初は国境に位置する山岳地帯で訪問医療が中心だった。しかし干ばつに苦しむアフガニスタンでは中村医師が中心となって水路の整備に着手し、重機を操縦するなどの活動をした。



黙とうする参加者



療スタッフなのに重機を手配して、まるで建設会社の職員みたいだった」と振り返った。水路の整備は飢餓に苦しむ子どもたちに食料を届けるためでもある。「食糧支援だけでは現地の人

豊橋の桜丘高

11/23(月) 東愛知新聞

11/23(月) 朝日新聞

11/23(月) 東日新聞

希望引き継ぐー決意新たに

ペシャワール会の豊橋支部と桜丘高が中村医師をしのぶ会

現地活動支える藤田看護師講演

アフガニスタンで中村哲医師の医療活動、かんがい水利事業などを支援してきたペシャワール会の豊橋支部(渡辺のり子代表)と桜丘高校は22日、同校記念会堂で、昨年アフガニスタンで武装勢力に銃撃され死亡した中村医師をしのぶ会を開いた。PMS(平和医療団・日本)支援室室長で、同総院長補佐と現地活動を支えている看護師の藤田千代子さんが講演した。豊橋の会員、生徒、学校関係者ら約100人が参加。事前準備と進行役は同高生徒会が行った。藤田さんは、パキスタンのペシャワール病院に看護師として赴任し、30年近くにわたって、医療を中心に中村医師の現地活動を支えてきた。その活動の中で、藤田さんが見たこと、聞いたこと、心に残ったことを、中村医師の現地での活動写真とともに語った。藤田さんは最後に、「中村医師のように、私たちが今困っている人たちに力を注いでいきたい」と話した。「先生が歩んだ道を歩み、事業をすべて継続し、希望を引き継ぎます」と決意を語った。(吉富恵子)

のたためにならない。自給自足ができるようにしたいといけなため、工事を進めた。現地の人たちも積極的に協力してくれた」と説明した。ペシャワール会は活動の継続が決まった。藤田さんは現在、福岡市で事務局担当を務める。「今困っている人を助けたい」と語った。

中村哲さんの遺志受け継ぐ

豊橋 一周忌前にしのぶ会

昨年12月4日にアフガニスタンで凶弾に倒れた中村哲医師(当時73)の一周忌を前に、豊橋市の桜丘高校で22日、中村さんをしのぶ会があった。

藤田さんは、医療支援を皮切りに、砂漠を農地に変えていった中村さんを「裏切りや事故に遭っても、目の前の困っている人を助けたい」と走り続けた」と振り返り、遺志を受け継ぎ、「いま困っている人たちに力を注ぎたい」と力を込めた。

国際NGOペシャワール会(事務局・福岡市)の活動を支援するペシャワール会・豊橋と同校が主催。看護師として中村さんと約30年間活動をもにしていた藤田千代子さんを招いた。

同校は、2002年に中村さんが来校した際の写真などを展示し、命日まで中村さんの思いに触れる場を校内で設ける。熊谷彰太さん(3年)は「中村さんが生きて証しをこれからも語り継ぎたい」と話した。



中村医師の活動を伝える藤田さん(桜丘高校記念会堂で)